

令和 5 年度東京都自立支援協議会
(第 2 回) 本会議

令和 6 年 2 月 2 2 日

東京都心身障害者福祉センター

(午後 1 時 3 0 分 開会)

○外川課長 それでは、お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから、令和 5 年度東京都自立支援協議会第 2 回本会議を開催いたします。

私は本協議会の事務局を務めさせていただきます東京都心身障害者福祉センター地域支援課長の外川と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは初めにお手元の資料の確認をお願いいたします。次第に資料の一覧が掲載してございます。資料 1 から資料 9 まで、そして参考資料 1 と参考資料 2 になります。大丈夫でしょうか。

なお、本日の協議会はグループ討議の時間を除きまして、オンラインでの傍聴を希望された方に公開をしてございます。オンラインで傍聴される皆様は、改めまして、カメラはオフ、マイクはミュートとするようご協力をお願いいたします。また、記録用の写真撮影を行わせていただくとともに、本日、速記も手配してございます。

本協議会の資料及び議事録につきましては、後日ホームページで公開をさせていただきます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、東京都心身障害者福祉センター所長の富山よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○富山所長 東京都心身障害者福祉センター所長の富山でございます。

本日はご多忙のところ、また、お足元の悪い中、第 2 回本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ここからは着座で失礼させていただきます。

今年度でございますけれども、本協議会第 8 期のスタートの年度でございますして、「協議会において合理的配慮による当事者の主体的な参画を推進するとともに、地域課題への取組過程の共有により、地域協議会活動の活性化を図る」これを今期のテーマに定めまして、令和 5 年度の活動方針として、「地域協議会間のつながりをつくりながら、当事者の主体的な参画による、地域移行・地域生活支援の先駆的取組を共有する」を掲げて活動を進めてまいりました。

また、昨年 6 月の第 1 回本会議におきまして、従前イベントごとでございましたグループ活動体制を見直しまして、活動方針に照らした「当事者参画推進グループ」、「協議会活性化グループ」の二つのグループに編成し直し、それぞれ副会長を中心に活動を進めていただきました。

各グループからは、交流会、セミナー、動向集に対しまして貴重なご意見お寄せいただきまして、そうした意見を踏まえて今年度開催いたしました交流会とセミナーは、後ほどの報告でもございますけれども、参加者から「大変参考になった」ですとか、「参考になった」との声、多くいただきまして、おおむね好評な内容であったと認識しております。皆様のご尽力に重ねて御礼申し上げます。

早いものでございまして、本日は令和 5 年度の締めくくりの会議となります。委員の皆様には、令和 5 年度の活動報告に加え、令和 5 年度の活動全体の振り返りやそれを踏まえた来年度の取組の方向性などについて、グループ討議を通じて意見交換をしていただくこととしてございます。限られた時間ではございますが、本協議会として引き続き大切にしていくこと、また新たな視点やこれまで以上に力を入れていくべきことなど、幅広くご意見をいただくようお願いいたします。甚だ簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○外川課長 ありがとうございます。本日ご出席の皆様につきましては、資料 1、委員名簿の記載のとおりでございます。なお、北川委員、齋藤委員、西田委員、龍委員は、本日都合により欠席となります。よろしくお願いいたします。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。改めまして、東京都心身障害者福祉センター所長の富山でございます。

東京都心身障害者福祉センター地域支援課課長代理の井領です。

改めまして、東京都心身障害者福祉センター地域支援課長の外川です。よろしくお願いいたします。

それではこれからの議事進行につきましては、岩本会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○岩本会長 皆様こんにちは。年度末のお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。座らせていただきます。

先ほど所長からもご挨拶いただきましたけれども、本当に早いもので、今年度の活動のまとめを今日の本会議で行うことになっております。第1回の本会議は6月5日でしたけれども、今期の第8期のテーマと、今年度の活動方針の言葉をどういうふうにしようかということで、なかなかしっくりする言葉が見つからなくて、意見交換があったということを覚えております。このテーマや活動方針に込めた思いが今年度どのように活動の中に反映されたかということ、振り返って、次年度につなげたいというふうに思っております。皆様どうぞ限られた時間ではありますけれども、いろいろお感じ、お考えのことを共有して、協議を発展させたいなというふうに思っております。

今日、皆様のところにもこの水と名前のところに動物の絵を貼っていただきました。私のペットボトルにも岩本会長と書いていただいているんですけども、こうやって名前が入っていると何かうれしいものだなというふうに思います。またグループも1グループ、2グループではなく、犬のグループとカラスのグループ、ペンギンという、そういった映像が浮かぶというのはすごくいいものだなというふうに思います。今日はお集まりの皆様もそれぞれお名前が当然あって、それぞれ感じ、考えていることが、一人一人違って色合いがあるかと思しますので、ぜひそういった様々な色合いが重なり合うような、そんな時間になったらいいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事を進めさせていただきます。本日は報告事項が五つ、東京都からの報告が三つ、そして、協議事項、グループでディスカッションしていただきますけれども、協議事項が一つ予定されております。本日の会議は16時、4時終了予定です。よろしくお願いいたします。

初めに、報告事項について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○外川課長 それでは初めに資料2をご覧ください。令和5年度の東京都自立支援協議会活動について報告をさせていただきます。

第8期の東京都自立支援協議会につきましては、冒頭、所長からもございましたように、そのテーマを「協議会において合理的配慮による当事者の主体的な参画を推進するとともに、地域課題への取組過程の共有により、協議会活動の活性化を図るといたしまして、令和5年度、そして令和6年度の2か年をかけて取組を進めています。第8期の最初の年になります令和5年度の活動方針は、「地域協議会間のつながりをつくりながら、当事者の主体的な参画による地域移行、地域生活支援への先駆的取組を共有する」といたしまして、年2回の本会議のほか、副会長を中心とした各グループ活動を進めるとともに、「地域自立支援協議会交流会」、そして12月に行われた「東京都自立支援協議会セミナー」、「動向集の刊行」等の企画に取り組んでまいりました。東京議会事務局が実施している情報保障について、お手元の資料、別紙のように取りまとめてございます。

交流会やセミナーでは、申込み時に必要な配慮を確認いたしまして、手話通訳、要約筆記そして点字の資料、音声コード・ルビ付き資料の用意などを進めております。また本会議などでは、当事者と支援者とともに委員として選任することや、会議の前に事前の説明に赴くこと。ルビ付き資料の準備、行政説明は簡潔に、グループ討議の時間を長く取るなどの配慮を行ってきております。

続きまして、資料の3をご覧ください。

「地域自立支援協議会交流会」は都協議会の活動方針のもと、今年は専門部会の皆様、地域

の専門部会の皆様を含めた幅広い声がけをさせていただきました。令和5年8月28日に対面方式で実施いたしまして、当日は14区12市の地域自立支援協議会委員の皆様や事務局の方々、当事者委員の方々、計78名にご参加していただくことができました。

八王子市さんと杉並区さんの地域協議会の担当職員の方、そして、当事者委員の方による先駆的取組の事例の発表の後に、10グループに分かれてグループ討議を行い、最後に全体で討議結果の発表しました。

協議会活性化や当事者参画推進に向けて、自分のところでは「まず」何ができるだろうかと、というようなところから、討議を進めていただいたこともありまして、意見が出しやすかったというような感想も多くいただきました。

次に資料の4をご覧ください。

12月に行われた「東京都自立支援協議会セミナー」についてでございます。こちらについても都協議会の活動方針のもと、第一部の基調講演では、「当事者の暮らしを支える地域づくり」について、第二部のパネルディスカッションでは、実際に地域で生活をされている障害当事者の方、その支援者の方の率直な思いに触れながら、当事者主体の地域移行、地域生活支援とはどのようなものなのか会場の皆様と一緒に考えてまいりました。今回のセミナーでは、一人暮らしをしながら、八王子市にあるヒューマンケア協会で働いている内山裕子さん。そしてグループホーム、畑中たましろ荘、青梅市にございますグループホームで「なかま」たちと一緒に地域で暮らしている中尾良彦さんから貴重なお話を伺うことができました。136名の参加が当日ございました。

また当日のセミナーの様子を収録いたしまして、年末年始、少し期間を延ばしまして、今年 は定めまして、動画配信をさせていただきました。動画配信視聴の希望者も287名ございました。

続きまして、資料5をご覧くださいと思います。こちらは令和5年度版の「東京都内の自立支援協議会の動向」、いわゆる動向集についてでございます。編集方針を継続して行っている調査については、協議会活性化と当事者参画推進という視点から改めて設問項目を精査していただきつつ、引き続き行っていくことといたしまして、今年度の活動方針に沿った設問項目については、新たに新設をする。そして、コラムを設けるという編集方針のもとで、各グループそれぞれでたくさんの意見をいただきながら、調査票に落とし込むような作業を進めてまいりました。こちらについても、本日調査票をおつけしてございますが、回答に要する時間をできるだけ確保したいというようなご要望もございまして、2月16日に各区市町村の協議会の事務局等に配布をさせていただいているところでございます。

続きまして、資料の6をご覧ください。令和5年度からは、新たに地域自立支援協議会の担当者連絡会というものを、ウェブですけれども、2回実施させていただきました。今年については事務局が主導で進めさせていただいております。

時期ですけれども、交流会の前の8月22日、ちょうど1週間ぐらい前なんですけれども、それと交流会が終わった後の10月30日というところで行わせていただきまして、1回目は記念すべき1回目ということもありまして、厚生労働省の専門官による情報提供ということと、後半にはちょうど令和4年度の動向集が出来上がっていましたので、そちらを話題にしながら、区部や支部、あるいは島しょ部の方にも意見を振りながら意見交換するような機会とさせていただきました。

第2回目は、精神障害者の退院促進というものをテーマといたしまして、そうした基調講演、そして世田谷区さん、国分寺市さんの先進事例の発表で、後半は参加した自治体から交流会に出た後、全体で発表したものを自治体に持ち帰った後にどんなことをしているか、どのように進んでいますかというようなことを、1自治体1分ぐらいなんですけれども、それぞれ一言ずつということで発言をいただいております。交流会で得た情報やアイデアというものが、やは

りこちらが考える以上に地域協議会の場で報告がされていたり、実際の取組に生かしてみたりしているというところが結構あるということが分かりました。

本日、私どもの本会議でも実は座席の配置について、この交流会で得たアイデアを取り入れてみたところでございます。いずれの回もこの５０名程度の参加がありました。

次に資料７につきまして、これ以降は東京都からの報告ということになりますので、よろしくをお願いします。

まず東京都は「東京都障害者・障害児施策推進計画」こちらは令和６年度から令和８年度の案というものを取りまとめておりまして、施策目標と取組目標の一つには、「地域における自立生活を支える仕組みづくり」というものがございまして、そこには入所施設・精神科病院からの地域生活への移行を促進する。あるいは地域生活基盤と相談支援体制を整備することで、障害者が地域で安心して自立生活を送れるようにするということなどが位置づけられております。

現在、こちらの資料にありますように、この計画案につきましてパブリックコメントというものを求めているところございまして、広くご意見を頂戴できればというふうに思っております。

続きまして、資料８の障害者総合支援法等関連研修の実施状況等についてでございます。令和５年度は、講義はオンデマンドで、そして演習は小規模グループで原則会場で行うということにさせていただきました。サービス管理責任者等研修のうち基礎研修については、例年多くの申込者があり、これに伴うこの演習指導者、いわゆるファシリテーターの確保が現状喫緊の課題となっております。参考資料として、研修検討会の報告もお付けしてございます。相談支援従事者研修検討会では、区市町村での実習対応、この実習というのは実は地域の協議会で行うということも一つございます。これに対するバックアップ方法の検討であったり、演習で現在使っている架空事例のバージョンアップといたしますか、刷新であったり、そうしたことに取り組んでいただいております。サービス管理責任者等研修検討会では、この研修全体を見渡ししながら、つながりを意識した研修プログラムなどの作成に皆さんで取り組んでいただいております。後ほど、ぜひご覧いただければというふうに思います。

最後になりますが、東京都障害者相談支援体制整備事業についてでございます。こちらの事業は前回の第１回の本会議におきましても、東條委員のほうから少しご説明があった内容でございますが、現在この相談支援に関するアドバイザーを区市町村や基幹相談支援センターなどに、派遣あるいは助言を行うという体制を取りながら、地域における相談支援体制の整備を推進することを目的とするような事業がスタートしてございます。

こちらについてはもしあれでしたら、東條委員のほうから補足説明などをできれば、ぜひ頂戴したいなと思っております。いかがでしょうか。私からは以上です。何か東條委員のほうからあればですけども。

○東條委員　今ご紹介にあずかりました東京都福祉局の障害者施策推進部の東條と申します。

ちょうど１年前にもこちらの事業、来年度から新規で開始をしますということでお話をさせていただきまして、初年度、準備に時間がかかってしまったこともあり、アドバイザーのその派遣が１月から３月ということで短くはなっているんですけども、短いながらも区市町村さんからお申込みをいただいている状況です。

次年度、来年度については、もう少し早く募集をして、派遣期間を長く取っていきたいというふうに思っております。また本当に年度末になってしまうんですけども、資料９の一番下にありますが、個別に各区市町村さんとか、基幹相談支援センターさんにアドバイザーが派遣されていくということ以外に、横のつながりづくりとか、情報共有のための研修会のような形のものを開催していきたいというふうに思っております。３月１９日の午後予定しておりますので、各その地域の中で、ぜひご対象になる方がご参加いただけるとありがたいと思

っております。

あと先ほど資料7のほうでご紹介をいただいた東京都の障害者・障害児施策推進計画のパブリックコメントの件ですけれども、こちら3月11日までという形になっておりますので、ぜひ、ご意見賜ればというふうに思っております。

ちなみに、本日資料がお付けできておらず、大変恐縮ですが、こちらのほうをダウンロードしていただくか、窓口での閲覧という形になるんですけれども、自立支援協議会のお話も、2番目の地域における自立生活を支える仕組みづくりというところの中、150ページとか151ページ辺りに載っておりますので、後ほどインターネット等でご覧いただけるとありがたいなと思っております。

ちなみに今回、前回の計画に加えている点がございます。先進的事例の紹介や区市町村協議会の活性化ということに加えて、障害当事者や家族が参画することの重要性を周知するということを、今後の取組の方向性というところにも明記をしておりますので、ぜひご覧いただければというふうに思います。

私からは以上です。

○外川課長 それでは、以上で資料の説明を終わりにしたいと思います。よろしくお願いします。

○岩本会長 ご説明ありがとうございました。

これまで、委員の皆様にもセミナーや交流会などでご協力いただきまして、ありがとうございます。また、今年度から担当者会議という連絡会ということで、各地域の自立支援協議会の事務局担当者の方の交流というのが、今期新たに行われたことかなと思います。これまでも、その協議会とその事務局がやっぱり連動して活性化させていくということで、とても重要なことだということをいろんなところで聞いてきましたので、その一つの取組ではないかというふうに思っています。

今のご説明いただいたことについて、少し委員の皆様からもご発言いただきたいと思っております。今、東條委員からもご説明いただきましたけれども、東京都の障害者・障害児施策推進計画の策定に関して、森山副会長と私も策定に関わっておりましたので、少し様子を述べさせていただきますので、森山副会長からお願いしていいですか。

○森山副会長 森山でございます。着座にてすみません。

今回の今期の施策推進協議会は非常に活発なご意見が出ました。当事者、家族、また関係する団体、それから相談支援センター等の関係機関の皆様が参加されている中で、本当に当事者の声が非常に吸い上げられる。例えば、知的の障害者も当然そこにいたわけなんですけれども、毎回丁寧に事前に協議会の前にきちんと説明があって、本人もしっかりとこういった意見を出すという原稿も作ってきておまして、本当に張り切って毎回、専門部会の、特に部長が必ず指名するからねと彼に言ってあったらしくて、とても緊張していましたが、とてもしっかりとした意見を述べておられました。こういったことで、こういう本当の当事者の声が伝わるということは大切だなと思いました。

また、今度新しくできます施策についても、また皆様から様々なご意見を出していただいて、ますますよいものになるんじゃないかと思って期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○岩本会長 ありがとうございます。私からも簡単に。

今、森山副会長がおっしゃっていただいたような、本当に率直な意見がいろいろたくさん出た会議だったなというふうに振り返って思うところです。先ほど東條委員もおっしゃっていただきましたけれども、やはりこの推進協議会とこの自立支援協議会は非常に連動するものだなというふうに思っておりますので、何かその連携ということも今回の計画には盛り込んでいただけたというふうに思っています。またメーリングリストでも私もお伝えしましたが、自立支援協議会の当事者委員の数があまりに少ないということも、推進協でも複数の委員の方

からご発言いただきましたので、そういったことを計画に盛り込んでいただいて、この自立支援協議会も私たちが設定しているテーマがなお進むようになっていただけたらいいなと思ったところです。

この会議のかなり終わりのほうで、この計画の提言案のまとめの段階で、ある当事者委員の方がこういった提言書を見て、私たち当事者は何をすればいいんでしょうかということをおっしゃったのがすごく印象的でした。どうしてもその当事者の参画とか、協働といっても、どこかやはり一方的にそういったものを提供するという発想がなかなか拭えていないのかなということを感じた次第です。なので、本当に当事者の方が持っているいろんな力であったり、キャラクターであったりとか様々なものを出していただくような、そういった仕組みとか、そういった話合いの在り方とか、そういう何をしたらいいんだとか、こういうことがしたいと思えるような、そういったことがこの協議会のまさに当事者の主体的な参画というところに込めた思いなんじゃないかなと思ってきましたので、ぜひそういったことをこの協議会でも取り組んでいきたいなと思った次第です。ありがとうございます。

あと、先ほどもお伝えしましたが、協議会の担当者連絡会、2回開催していますけれども、2回目の担当者会議では、根間委員が古屋さんですね、基調講演ということでご紹介いただきましたので、根間委員からも一言ご発言いただけますでしょうか。

○根間委員 私自身が精神科病院に長期入院している方の支援活動を自分のライフワークとしてあることありまして、基調講演の講師をしてくださった古屋さんという方は、もう本当に長い間、退院促進事業にずっと取り組んでこられて、研究活動、実践活動してきた方で、この方のお話をぜひ聞きたいなと思って推薦させていただきました。

実は地域移行というのは、制度に載っている前のモデル事業の段階で、退院促進事業という形でかなり進んでいたというふうに私としては感じていたのですが、いざその制度の中で、福祉サービスの中でやりましようとなると、なかなか逆にスピードが緩んでしまっているんじゃないかなというのが私が実感しているところで、やっぱりこの長期入院しているお一人おひとりの方を地域にというのは本当に時間がかかりまして、半年とか1年とかで区切ることができるのではないかなというのは、私自身も病院訪問をしていてつくづく感じるところで、研修の際にあるコーディネーターの方が50年ぐらい入院なさっていた方をずっと訪問しながら、その方がどんなことにご関心お持ちかということで、食べることがとても好きだったので、じゃあ一緒に外に食事に行きましょうか、病院ではなかなか食べられないお寿司とか、そういうものを食べに行きましょうかというところからその方との関係を少しずつつくって、その方は全然外の世界に関心をお持ちでなかったそうなんですけど、最初の頃は。でも、だんだん外に出かけていろんなお食事したり、いろんなものを見聞きするうちに、だんだん外への関心もお持ちになるようになって、グループホームも最初は「とても嫌だわ」とおっしゃっていたのが、ちょっと見学だけ行ってみようかとだんだんだんだんお気持ちが動いて、今現在は本当にもう多分グループホームを卒業して、地域での生活をなさっているんだと思うんですけど、本当に何年も何年もかかって、そうやって長いこと入院していた方が地域に戻るとというのは、本当に時間と根気とあと、人と人のつながりのそういう関係性の中で実現するものだなというのを感じています。

確かに制度にのっとなって、みんなができるような活動にすることも大事なんですけど、どういうところが大事なのかというのは、ぜひ、もう少しうまくいってないようだったらもう一遍見直して、構築し直すことも必要なかなと感じております。私もずっとピアサポーターとして病院に入っております、本当に毎月お訪ねしていて、最初は向こうから何やってるのかなとのぞいていらした患者さんが、だんだん私たちの集まっている席まで来てくださってお話を聞いてくださったり、そして、だんだんこう発言も出たりして、そうやってだんだん元気になって、あるとき、実は私、来月退院するんですよと言ってくださったときは本当にうれしくて、この方がこんなふうに変わられたのは、もちろん私たちが直接働きかけたわけじゃないん

ですけど、私たちが訪ねるという環境のある中におられたからこそ、多分ワーカーさんとのお話の中で退院に向けて、前向きな取組をなさったんだろうなと思うので、本当に間接的にも直接的にもいろんなサポートが必要なんだろうなと思います。

私自身も入院してたときは本当に外部の人との接触がないというのが、本当に精神科病院って今でもそういうところも多いかと思うので、できればぜひどんな病院もそうなんですけど、長期入院になっていらっしゃるところには、なるだけ外から人が入っていて、その中の職員だけじゃない、外部の人との交流ができるような、そういうものもぜひ入れていただきたいですし、今回、新しい制度で病院に訪問されるような制度もできたようですので、ぜひそういう方たちもあまり専門職ばかりじゃなくて、どっちかといえば一般の方々が気軽に訪ねていけるようなものになるといいのかなんていう感想を持っております。

自分の考え方に偏ったことで、今回の古屋先生のお話とかとは、ずれているかもしれませんが、感想を述べさせていただきました。ありがとうございます。

○岩本会長 根間さんありがとうございました。本当に地域移行支援事業ということで、制度化されることも大事なんですけど、その事業にのっかるまでが非常に大変だというような、そういったいろいろな環境づくりからそういったところまで取り組む必要があるということをおっしゃっていただいたと思います、ありがとうございます。

また今年度のセミナーでパネリストの方ですね、当事者の本当に地域の生活のリアルな状況というのを伝えていただいたわけですが、セミナーの登壇者の方をご推薦いただきました仲田委員と久保委員からもちょっと一言ご発言いただければと思います。

仲田委員にお願いしていいですか。

○仲田委員 地域生活相談室おあしすの仲田です。ありがとうございます。

登壇された内山さんとは、私は東京都の地域移行促進コーディネート事業で最初に知り合ったんですね。それで、まだその事業が始まったばかりだった頃だったので、私も右も左も分からずに目の前の草を刈るような形で進めてったわけですが、そこで内山さんと出会いまして、内山さんに逆に背中を押される形で地域移行に関わらせていただきました。その支援者として松田さんがいらっしゃってという形ですので、松田さんは今も日野市内で相談支援部会で一緒に活動していたり、ちょうど、たましろ荘の支援者の有山さんも、実は日野市の自立支援協議会の委員で、私も一緒に活動してた委員ということで、すごく出会いがあるなと、縁があるなと思いました。

内山さんは、八王子市で活動されているんですけども、今、地域移行のことについて内山さんにも相談したり、一緒に利用者さんのお話をしたりとかということで、一緒に活動しています。今となっては当時は利用者さんだったんですけども、一緒に働く仲間という形でやっています。こういった形でどんどん仲間が増えているなというふうに感じていて、地域移行はやはり制度が必要であったり、マンパワーが必要だったというところがすごく大きいんですけども、やっぱり仲間づくりとか、仲間がいないと地域移行が定着しないなというふうに思っているの、そういった形で仲間ができたなというふうに、今このメンバーを見て、改めていい仲間ができてきたなというふうに分りました。ありがとうございます。

○岩本会長 仲田委員ありがとうございます。続いて久保委員からもお願いしたいと思います。

○久保委員 原町成年寮の久保です。

本当にたましろの郷のことを知ったのは偶然で、青梅市内で講演を頼まれて、一般向けの地域移行のお話をしたときに、自主生産品を販売していたという講演で知ることになりました。

聴覚障害をお持ちで、知的障害をお持ちというろう重複というそうですけれども、その初めての知らない世界に触れるに当たり、やっぱり知っておかなきゃいけないなということで、施設のほうに見学させていただいたご縁で今回お願いしたという形です。私も地域移行のコーディネーターをやっているんですけど、やっぱり知らないということが、差別までいかなくても

地域移行の足かせになることが多くて、その中で私も聴覚障害と知的障害をお持ちの方に関わったことがなかったので、非常に勉強になりました。聴覚障害者の人はみんな手話を操っているのかななんて思っていたら、やっぱり知的障害だと自分なりの手話しかできなかったりというところで、その支援者の寄り添い方がすごく勉強になったので、グループホームのほうにはまだ行けてないんですけれども、ぜひみんなにも知ってほしいなというところで推薦いたしました。

以上です。

- 岩本会長 ありがとうございます。今、その仲間づくりとかそういった出会いを通して、新たなその活動につながっていったり、自分たちのその支援のバリエーションを増やしていったりというのが、この協議会活動を通して、またそういうのが広がっていくといいなというような、そういうことを伺ってて思いました。

そういったつながりとか出会いというのが、多分また次年度のいろいろ活動でこういう話が聞いてみたいとか、そういうのにつながっていくのではないかなというふうに思っているところです。

そうしましたら、副会長の曽根さんと秋元さんから1年を振り返って一言ご発言いただきたいと思います。まず曽根副会長からいかがですか。

- 曽根副会長 曽根です。今年度から参加させていただきまして、どういうことするのかということ、1年間教えていただきました。それで、協議会の設置要綱を見ますと、全部で七つのことが書かれていまして、現在の協議会で取り組まれているのはこの中の一部というふうに私は感じました。地域生活への移行の促進ですとか、当事者の参画というのは広く読めば、多分（7）のその他協議会に係ることということに入ってくると思うんですけれども、例えば都全域における社会資源の開発改善ですとか、虐待防止の体制整備、こういったことについては今年度は具体的な取組には至らなかったんじゃないかなと思いますので、そういったことも含めて次年度は協議会の設置要綱に書かれているような内容に即した活動ができるように、私も力を尽くしていけたらと思います。ありがとうございました。

- 岩本会長 ありがとうございます。では、秋元副会長からお願いします。

- 秋元副会長 秋元です。

今年度から新たな体制というか、グループが二つに分かれてという中でどうなるんだろうという不安の中で出発したという形だったんですけど、交流会とセミナーを通してという形でできたのはすごくよかったのかなというふうには思うんですけれども、なかなか、今まではゴールがしっかりとグループごとに見えていたんですが、ゴールがなかなか見えづらいというところで、議論が各グループで深まらなかった部分もあったのかなというふうに私自身は感じています。なので、今年度を踏まえて、来年度、どのようにしていけばもっとこの協議会自体が活性化していくのか、もっと皆さんが一体となって議論できるのが一番いいと思うので、それが先々につながっていくような形になっていったらいいなというふうに思っています。

以上です。

- 岩本会長 ありがとうございます。森山副会長からありますか。ごめんなさい、先ほど推進協のことを聞いたので、もしよかったら一言。

- 森山副会長 今回は3本立てということで、3グループに分かれて行われました。以前、私はセミナーの担当だったので、いついつまでにこれを決める、というような、そういうようなめどがありましたが、今年は通年で一緒に考えていくという感じだったなと思っています。でもそれはそれですごく連携というか、つながりがあって大変よかったなというふうに思います。そして、また担当者連絡会もしていただいて、私もウェブ参加させていただきましたが、やはり地域の自立支援協議会の活性化のためには、とてもありがたかったなというふうに思っています。以上です。

○岩本会長 すみません、ありがとうございます。今までの報告を受けて、皆さんもいろいろ今年度を振り返って、お感じ、お考えのことがあろうかと思えます。多分ですね、今三つに分かれたグループのほうでご発言しやすいかと思うので、ぜひ、今年度振り返っての、あと次年度に向けてというところでは、グループで活発な意見を出していただければと思います。

それでは、報告事項は以上といたしまして、協議事項に移りたいと思います。

後半グループで進めますグループ討議の進め方について、事務局からご説明をお願いいたします。

○外川課長 それでは資料の10をご覧ください。これからグループごとに令和5年度東京都自立支援協議会活動の振り返りと、そして次年度の令和6年度の協議会活動に向けた意見交換を行っていただきたいと思っております。

これまで都協議会では、交流会、セミナー、動向集という、言わばイベントツールごとに三つのグループを編成して活動を進めてまいりましたが、令和5年度、今年度からは当事者参画推進と協議会活性化というようにいわゆる目的といいますか、活動方針に沿った目的ごとに二つのグループに分かれて年間通じた取組ということでお願いしてまいりました。

また協議会担当者連絡会は今年からの新たな取組となりましたが、さらに併せて地域移行、地域生活支援という地域課題に焦点を当てた取組というものについては、今年で2年目ということになります。今年度は交流会とセミナーの発表者につきまして、第1回の本会議で広くご意見をいただきまして、発表者についても、アプローチもスムーズに行きまして、要は早めに動く体制が取れたということで、一貫した流れみたいなことは少しつくれたのかなというふうに事務局のほうでは思っております。一方の活動方針について、交流会やセミナーのテーマとしても使えるような、できたらもう少しコンパクトなものにしたほうがよかったのではないかなというようなことも思っております。

令和6年度につきましては、第8期のテーマを実現するための最終年度となります。地域課題に焦点を当てた取組、あるいは協議会担当者連絡会の今後の進め方であるとか、さらには、都協議会委員の連絡会に対しての関与を含めた、私どもの都協議会活動の活性化をどのように進めたらいいのかというところを、ぜひこれからスタートするグループごとの話し合いの中で忌憚のないご意見をお聞かせいただけたらと思います。

これまでの経緯も含めて簡単に説明をさせていただきましたが、今期から新たに委員となられた方も実際にいらっしゃいますので、詳細につきましては、できるだけ継続して委員を務められている皆様から、適時補足なりフォローをしていただきながら、これから進めるグループ活動で活発な意見が出るようお願いしたいと思っております。なお、このグループ討議中は非公開とさせていただきたいと思っております、傍聴の方は一旦非公開となりまして、15時30分から全体会を再開することになりますので、傍聴の方、15時30分になりましたら、再度入室をお願いしたいと思います。討議結果について各副会長さん、リーダーさんからのご報告がございます。

私からは以上です。

○岩本会長 ありがとうございます。今ご説明いただきましたけれども、3グループの中で今期からの方もいらっしゃると思えますけれども、その前から関わってくださっている委員の方もいらっしゃいますので、勝手が分かりにくいなという場合は、前期、前々期から関わっていらっしゃる委員の方はぜひ補足していただければと思います。

そして、ここにある意味、今回の本会議のメインですので、皆さんは本当に次期につながるような意見交換を活発にいただければと思います。これからグループ討議に入りますけれども、何かご質問ございますでしょうか。事務局の方もいらっしゃいますので、何かあったら聞いていただければと思います。それではグループ討議に入ることですので大丈夫ですか。

それぞれグループの担当の副会長さんよろしくをお願いいたします。

○外川課長 一応１０分前にお声がけいたします。あと１０分ですというお声がけだけさせていただいて、活用していただけるように、ホワイトボードとかを用意いたしましたので、適宜使っていただいてというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

(グループ討議)

○岩本会長 ありがとうございます。いろいろなご意見が交わされたと思うんですけども時間がどうしても足りないかと思いますが、全体会を再開したいと思います。

各グループのリーダーさんということで、副会長さんをお願いしておりますが、グループ討議、どのようなお話があったかというのを報告していただきたいと思います。

こちらから、まずペンギンさんチームになりますかね、よろしいですかね、ごめんなさい、秋元副会長からお願いしてもよろしいでしょうか。

○秋元副会長 秋元です。

ペンギンさんチームから話させていただきます。本当にたくさん出てどれをというのが難しいのですが、やっぱり２グループに分かれて、各チームごとに三つのことについて話を進められたのがよかったのかなというところです。やっぱりなかなか、そこでの参加者が固定化されていたような気がするので、それは事前に日程が決められると、皆さん参加しやすく議論ももっともっとできるのかなということがありました。

あとは、担当者連絡会ができたというのはとてもよかったなというところがありました。

あと、交流会についてですが、交流会はなかなか出てる地域と出ない地域があるというところがちょっと残念というところ、ここで東京都のこの自立支援協議会の説明会をどんなことをしているのかというのが、説明する機会があればいいのではないかなということも出ました。結構、東京都の自立支援協議会のことを知らないという人も実際には多く、中に入って聞いて初めて、結構、日常こういうことをしているということを知るといような話もありました。

あとセミナーについては、当事者が話をするということはとてもリアルな話でいいということで、実際には今まで成功事例というか、実際に地域に移行してきてる人の話を聞いてきたのですが、もちろんそれも大事ですが、逆にまだ、地域移行できていない人の声を聞けたらいいのではないかな、実際にどんなプロセスをたどっていけば、地域に移行できるのかというようなこともあったらいいのではないかなというようなことがありました。

話が飛んでしまうのですが、都の協議会は会議前にいろいろ説明を当事者にしてくれるからいろいろと議論ができるという話もあって、もちろん当事者に説明するということは大前提で必要ですが、委員全員に対しての説明というのが各協議会で行われると、もっと皆さん発言しやすいのではないかなという意見も出ました。

あとは動向集については、今回いろいろと工夫されていて、すごくいいのではないかなというところで、今回せっかく工夫がされているので、こんな工夫がされているよ、みたいなものがくっついてあるとみんな見てくれていいのではないかなというのが意見として出ました。

すみません、いろいろ飛び飛びで申し訳ないのですが、うちのチームとしてはこれで終わります。

○岩本会長 ペンギンさんチームの秋元副会長ありがとうございます。

では、カラスさんチームの曽根副会長お願いします。

○曽根副会長 はい。カラスチームは、まず会議の資料よりも、話し言葉のほうに分かるという意見がありました。だから、事前に事務局の人に説明してもらったのは、よかったのだけれど、説明だけではなくて、当日どういう発言をするかという準備まで一緒にしてくれるととってもよかったというお話でした。

それから、自立支援協議会の役割が分からなくなることがあった。それはなぜかというと、

何かもっと現場で困っていることがたくさんあるのではないかと、でもそれがなかなか協議会上がってこないような気がして、もう少しそういうことを取り上げたほうがいいのではないかと、そういう場所が自立支援協議会なのではないかなというふうに思ったということでした。

それから厚生労働省に、そういった困り事を提言するというのもしていいのではないかと。それについて、まず東京都知事に提言するというのもいいですねと言いました。そしたら一応賛成してくれました。

それから、あとセミナーの演者については、ペンギンチームと同様、やっぱり成功したということだけではなくて、うまくいかなかったという発表も聞いていいのではないかとというお話が出ました。ただやっぱりうまくいかなかった話はしづらいので、すりガラスを前に立てるとか、登壇しにくいんだったら事前にビデオを撮って、モザイクをかけて音声を変えるとか、何かそんなにふうにしてもいいのではないかとということでしたけど、でもそれをやる人の負担が重いから、ちょっと実現する可能性は低いのではないかとというお話もありました。

あと、相談支援専門員が知られていない。あと、辞めてしまう人がいる。事業所もやめてしまっている。こういった現実を何とかしなくてはいけないのではないかとという意見がありました。

あと、8月の交流会で、来たばかりですぐにグループのファシリテーターをやったが、どうしていいかわからなくてすごく難しかったとおっしゃっていました。それから交流会のテーマは二つあって、合理的配慮と地域移行、この二つのテーマの関連性というのはちょっとなかったのではないかと、ちょっと進めにくかったというようなお話をされていました。あと私は、交流会、セミナー、動向集というのは、この自立支援協議会の大きな役割になっているんですけども、もう少し地域の課題を解決するというような内容を組み込んでもいいのではないかなと思ったという感想を申し上げました。

来年度に向けてなのですが、やっぱり全体のテーマはあったほうがいいのではないかと。地域移行ということでもいいんですけども、やっぱり現実には進んでいない。あと八方塞がりになっている。それから都内でグループホームをつくるのが大変で、結局都内に住めなくて地方のグループホームに行ってしまうというようなことがあるので、そういうことを具体的にどうやったら解決できるのかというようなことも話したいし、あと地域移行が進むと入所施設の利用者が減って、今度入所施設の運営が大変になってしまう。そこをどういうふうにみんなやっているのかということも聞いてみたいとおっしゃっていました。

あと、何とかをやりたいてどううまくいかないというようなことを話してもいいのではないかと。やっぱりもっとうまくいかないことを出し合ったほうがいいという気持ちが強いみたいでした。ただうまくいかないことばかり話していると、雰囲気は暗くなってしまうかもしれないということも心配されていました。

それから、あと、会議の進め方はこういう小グループで話し合っ、全体で共有するというやり方は話しやすくいいのではないかとおっしゃっていました。時には、お菓子も用意したりすると、もっと話しやすくなるのではないかとというようなご提案もあり、ご自分の自治体ではそういうこともやっていらっしゃるというご報告もあり、お菓子があったほうがいいというご意見でした。

それから、あと東京都の協議会の目的、要綱の目的の中で、やっぱり今の協議会で取り上げられてない課題も結構あるのではないかと。地域移行は取り上げられていますけれども、ほかのところで取り上げられていない項目もあると思うので、やっぱりそういうことについて1回着目して、具体的なテーマを見直すということもいいのではないかとというご意見でした。

それから、協議会で何をやるのかということをや要綱に1回照らして点検するというのもいいのではないかとということと、他県の例も勉強しながら、やっぱり東京都でもいいところは取り入れてやってもらえるようなことをこの協議会の中で議論してもいいのではないかなという

ことを申し上げました。

あと人手不足がやっぱり東京都はすごく深刻なのですよ。なかなか募集しても来てくれない。それを市町村単位で解決するのは難しいので、幾つかの市町村と合同で取り組むとか、そういった市町村間の調整役を東京都が果たすとかということも考えていいのではないかという意見もありました。

以上です。

○岩本会長 ありがとうございます。では、最後、犬さんグループにこちらは動物ですね。

○森山副会長 私たちはまず自己紹介がてらいろんな話を進めたので、そういった話にちょっと盛り上がってしまいました。そんな中で、前は全体会で大きい口の字のような感じでしたけれども、今回、このような小さいグループに分かれて話をするのはとても話しやすかったというふうな声がありました。当事者ももちろんこういう小さいグループで、いろいろ東京都はすぐ取り入れてくれるというご意見もありました。それでうれしいです、というふうな話をされました。

当事者の声を聞くことに力を入れていく、5年度の振り返りですけど、やっぱり当事者の声を聞くこと、セミナーにおいてもそういう話を聞くことがあって、非常にリアリティがあったとのことです。この当事者の声を聞くというのは地域で難しい面もあるけど、東京都が率先して見本を見せて、当事者の声を聞くということを大きなテーマにしてくださるのはとてもよかったと意見がありました。

セミナー等で、今日も自己紹介の中で、こういう文房具を買うことが好きなんだとかね、いろいろ具体的な話をしてくれたんですね、みんなに。そういう具体的な本人の声ということで、地域生活がこんなに楽しいんだということはすごく重要だなという話が出ました。

長期入院をしている人は自分の好きな鉛筆を買うこともできなかったり、コーヒーを好きなときに飲むことができなかったりということもあるから、本当にこのリアルな声を聞くというのは、すごく参考になるなという話もありました

そういった面で来年度はセミナーの様子を支援者が会場に来て聞くのみならず、体験した当事者が、地域移行した当事者がウェブでそういうのを聞く、見るというのはとても参考になるのではないかな。つまり、そういう当事者にこそ聞いてもらいたいというような思いが強くなりました。

あと、交流会に自分たちの区が出ていないと、なんてことだと、参加してほしいというふうにも強く言っていたという声もありました。ただセミナー、動向集、交流会と以前は別々で、グループのまとまった何かが分かりにくかったけど、今回は本当にそれが一貫して、一つのテーマでずっと一貫してあったということはよかったと。事務局が担当してくださった支援者の古屋先生がくださったあの担当者連絡会とかも大変よかったと。やはり支援者のほうにどういうふうにしたら当事者を迎えられるかとか、様々な工夫を当事者のみならず、そういう支援者のほうにもしっかりと分かるようにやって欲しかったというような声がありました。また、そういう支援者を集めての、こういう協議会を運営している側ですね、そういう人たちもグループになって話をしたいというのでも希望がありました。

あと、交流会とかセミナー等でやっぱり当事者の声とかいろいろな支援の側の話を聞くこともとても大事で、やっぱり好事例を広げるとことはとても意味があるのではないかなということでした。やっぱり失敗というか、プロセスの中で苦慮したということもあるだろうけれども、やっぱり好事例が励まされるし、とてもいいのではないかなという話もありました。

それから、ピアサポーターの目線というのも大切ではないかなという声もありました。やはりピアサポーターがいて、このような地域生活ができていんだという生の声を広めるということも非常に大切であろうと。なので、6年度ですが、具体的にこういうふうなことをしたいんじゃないかなという声はなかなか出なかったんですが、先ほど申し上げたように、当事者に

当事者の声を聞く、当事者参加をしてもらうには、やはり、当事者のところへ行く、こちらが行って、何かグループになっているところへ、こちらがインタビューに行くというのもすごく大事だろうと。フランクに本人たちが話せるので、そういうふうなのがいいんじゃないかということもありました。

そうですね、入所施設でも、地域移行するのも、この前の交流会では、セミナーで親に気を遣って入所しているという話もありましたね。あれはすごくインパクトがあって、今度は入所しているところでは、入所支援の施設の人に忖度するんだという声もあってちょっとびっくりしました。やっぱり支援者側に忖度するようになるということも、なるほどなというような話でした。ですので、こういう機会は本当に大切に、やっぱり交流会等もグループで話すということはとても意義があるなと、生の声がいろんな苦慮・工夫をしたこととかいろんなことが聞けてとてもありがたいなというふうには思いました。

○岩本会長 森山副会長ありがとうございました。三つのグループリーダーの副会長さんからご報告いただきました。でも本当にいろいろ盛りだくさん、いろんなアイデア、ご意見が出たのではないかと思います。ちょっと時間が浮いてしまったんですけども、全体でこれだけは発言したいとか、どうしても全部網羅するの難しかったと思うので、これも報告したいんだというのがありましたら、ご発言いただきたいんですが、いかがでしょうか。

大丈夫ですか。ありがとうございます。

本当にいろいろなご意見をいただいて、何かその次期の方向性みたいなのも少し見えてきたのではないかなと思います。第8期のテーマというのは今年度と来年度共通なんですけれども、どちらかというこのテーマは協議会の活性化ということで、二つの柱、当事者の主体的な参画、参加したいなと思えるような、こういうことを言いたいなと思えるような、そういった協議会ということと、あと地域の協議会間の情報共有というか、相互作用というか、そういったことだと思いますので、ちょうど今、二つのグループに分かれているので、それをまた次年度引き継いで、当事者の参画と協議会間の交流というところを使って、どのような地域課題に取り組んでいくかということをお話合いが今後進められていくんじゃないかなということ、具体的な何か提案をいただいたのではないかなと思います。

今回本当に8期目の1年目でしたし、新しい体制での取組でしたので、最初手探りで、先ほど秋元副会長のグループにもありましたように、もうちょっと各グループの話合いを計画的にやらしてもらえればということがあったと思うんですが、次年度はかなり計画的にできるのではないかなというふうに思いますし、今日皆さんがご発言いただいたことを早いうちに各グループで日程も早めに決めて話し合っていただけると、さらに今年の形を生かして次に進めるのではないかなと思いました。今日皆様からいただいた意見もまた副会長、事務局と相談しながら次年度の準備を進められたらと思っておりますので、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

それでは、本日全ての議題が終わりましたので、司会を事務局にお戻したいと思います。お願いします

○外川課長 本当にたくさんの貴重なご意見をありがとうございました。

おかげさまで令和5年度の自立支援協議会活動も滞りなく進めることができました。この間、協議会の担当者連絡会とか新しい取組をする中で、一つはやっぱりつながりということが少しずつつながってきたのかなというふうに思っております。本日も傍聴の方々、地域の自立支援協議会さんを含めて13団体のエントリーがあったりとか、延べで40名ぐらいの方が今この協議会の様子をご覧になっているというようなところもあって、少しずつですけども、地域の協議会さんの一人ひとりの顔と様子が伝わるような、また都の協議会も少しずつ興味関心を持っていただけるような形に進んできているのかなと思っております。事務局を代表いたしまして、皆様のご協力、感謝に堪えません。一言お礼を申し上げたいと思います。また本当にお

忙しいところ、合間を縫って出席していただいて、たくさんの意見をいただきありがとうございます。

それでは、これをもちまして、本日の第2回本会議を終了させていただきたいと思います。
本日はどうもありがとうございました。

(午後3時58分 閉会)